

東播磨

明石市・加古川市・高砂市・稲美町・播磨町

きらっとVision

第9号

東播磨地域ビジョン情報誌



加古川土木事務所と語ろう会



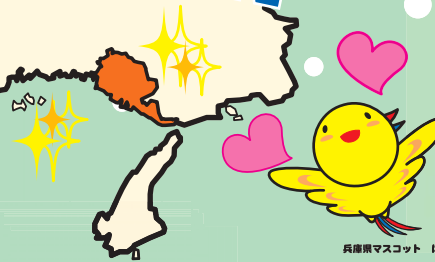
東播磨地域夢会議



グループディスカッション

HIGASHI-HARIMA VISION

AKASHI
KAKOGAWA
TAKASAGO
INAMI
HARIMA



兵庫県マスコット はばタン



避難所運営ゲーム (浜の宮幼稚園)



誓文払いパレード



フェスタへの出展



第4回全体会

CONTENTS

- ★ 実践活動グループの取組を紹介
- ★ 東播磨地域夢会議を開催
- ★ 情報発信！ビジョンスポークスマン活動を紹介
- ★ ズームアップ！ ～兵庫大学生による地域活動支援～
- ★ きらっとコラム ～第8期東播磨地域ビジョン委員になって～

実践活動グループの取組を紹介



地域の皆さんが、「東播磨をこんな地域にしたい」という夢や将来像を描いた「東播磨地域ビジョン」。

- ①心地いいまち
- ②楽しいまち
- ③美しいまち
- ④力強いまち

という4つの将来像を実現するために、地域の皆さんから公募で選ばれた「東播磨地域ビジョン委員」がさまざまな実践活動を展開中です。

1.心地いいまち（暮らしづくり）

法華山谷川流域の“防災・減災” & 自主防災会の活性化と連携

グループ：地域防災・減災推進グループ 代表 赤堀 敬二

平成23年の台風12号による法華山谷川流域の浸水被害を契機に、流域の「安全・安心まちづくり」に取り組んでいます。本河川は、総合治水対策改修で見違える姿に整備されましたが、想定外の豪雨は容赦なくやってきます。ハード整備だけではなく、「自助・共助」体制の取組として、自主防災組織の活性化が極めて重要です。具体策として、①田んぼダムやため池の事前放流、調整池の管理、②防災研修・訓練による地域力強化のほか、③環境課題である「里山の竹害（山崩れ防止）」に挑戦しています。地域連携モデルの実績を他地域に発信し、実践されることを願っています。

【活動報告】

11月27日（日）、4町の自主防災会が“三世代交流”と“レクリエーション”をテーマに、地域連携の実践活動として、西神吉小学校で防災訓練運動会を開催しました。

メニューは、播州弁ラジオ体操から始まり、シェイクアウト

訓練、消火ボールリレー、簡易担架競争、避難所運営、防災クイズ等の競技から、仮設トイレの考案や感震ブレーカーの取り付け、ペットの避難方法等の説明まで盛りだくさんものでした。

「継続して欲しい」という積極的な意見が寄せられる等、参加者全員が楽しく盛り上がり、“防災・減災”を経験することができました。



播州弁ラジオ体操



簡易担架競争

体感プログラム「未来志向の防災・減災」

グループ：東播磨防災チーム 代表 畑 邦夫

「東播防災リーダーの会」のうち、ビジョン委員として委嘱された4名を中心に、「東播磨防災チーム」を形成しました。

防災・減災や応急手当の講習会を通して、地域団体と連携し、東播磨地域の地域住民の意識啓発とスキルアップをめざしています。また、世代間交流や若者世代の地域活動への希薄化を解消し、次世代の担い手を育成することで、安全安心が実感できる東播磨を実現します。

【活動報告】

防災士有資格者や加古川市応急手当普及員有資格者が、



明石南高校生と避難所運営ゲーム (HUG)

東播磨地域の各種団体を対象に、防災講習や応急手当講習等をワークショップ形式で実施し、災害発生時を模擬体感していただくことで、意識啓発とスキルアップを図っています。町内会やPTAを対象とする等、地域に重点を置き、年配者や子を持つ親世代、子どもたちが同じ内容で受講し、老若男女問わず共通認識できるよう心掛けています。また、次世代の担い手を育成するべく高校生を対象としたジュニア防災リーダー養成にも力を入れています。

来期の長期休暇中には、小学生と保護者、そして地域を巻き込んだ「災害時を想定した非常食実体験」を実施するため協議中です。



防災講習会 (浜の宮中学校)

安心して暮らすためのまちづくり～結びつきの再生活動～

グループ：地域の結びつき応援隊 代表 岩見 明

現在、超高齢化社会を迎えて、従来の社会保障制度は、維持できない状況が予想されています。しかし、そのような社会にあっても、地域活動は低調となっており、人々は孤立化を深めています。

そこで、地域のつながりをもう一度見直し、安心して暮らすことができる社会実現のために、地域住民が社会問題や地域課題を自分のこととして考える機会を提供し、話し合える地域をつくることを目的としています。

【活動報告】

「地域の結びつき応援隊」は、地域で安心して暮らしていくために住民同士の結びつきを応援する活動です。今年度は、ビジョン委員の研修会として地域活動の事例（鹿児島県柳谷集落「やねだん」の活動）を勉強し、地域の結びつきを応援するための手法について議論しました。また、高砂市北浜町北脇で校区区人権研修として地区懇談会を開き、関心のある有志（16名）に集っていただき、「やねだん」のDVDを

視聴し、その後意見交換を行いました。今後、定期的に懇談会を開催し、地域の課題を明確にして、その解消に向けた取組ができるよう活動を進めたいと考えています。

地域活動を進めるためには、自治会長等の地域リーダーとの話し合いが必要です。自治会長も任期（2年）があり、今年度は改選の時期になっていますが、継続して活動することが課題です。また、ほかの地域でも活動を広げるために、



地域活動事例DVDの視聴

ビジョン委員を対象とした研修会を開催し、勉強を重ねていくことで、各々の地元でも活動につながられたらと考えています。

2.楽しいまち（人づくり）

ネットワークで地域連携支援活動

グループ：ハートランドぐり石ネット 代表 秋好 一

自分が持っている知識や技能を地域社会に役立てたいと考えている人と、それらのサービスを受けたい人を結びつけ、需給の関係を円滑にする住民活動サポートシステムづくりをめざしています。

継続的に、「ボランティアの井戸端会議」を開催し、地域活動に関わりたい人材の掘り起こしを図るとともに、地域の歴史を巡る「ふるさと探訪」を開催し、地域活動の実践力向上につなげます。

【活動報告】

平成13年から続く「ハートランドぐり石ネット」は、青少年の健全育成を基本に活動しています。10月9日（日）、播磨町の良仙寺と古宮公民館で「坐禅とむかし遊び」を31名

の参加者を交えて開催しました。むかし遊びでは、「エコ草履づくり」「ザリガニ釣り」にチャレンジしました。また、皆さん神妙な面持ちで「坐禅」を初体

験し、新鮮な気持ちで充実した1日になりました。

11月23日（水）、高砂市の生石神社から観瀨処を經由して亀山山頂のコースを巡る「てくてくハイク2016」を開催しました。歴史探訪の意味を持たせて50名の参加者と歩きました。当日はとても寒い天候でしたが、逆に空気が澄んで遠方まで良く見えました。亀山山頂は、姫路市から紀州方面まで眺望が素晴らしく、姫路城が望めて参加者から歓声が上がりました。ボランティアガイドの皆さんからは、とても詳細な説明を加えていただき、こんな近場に魅力ある地域資源があることを再認識できました。参加者からは、「春も開催してほしい」と嬉しい要望が出されるほど意義のあるイベントになりました。



てくてくハイク2016（亀山&生石神社）



坐禅に挑戦中!

弁論大会を通じて子どもの思いを世間に伝えるとともに、 地域社会において自らができることを考えてもらうプラン

グループ：ハートランド弁論大会実行委員会 代表 林 佳史

「子どもとともに地域をつくる」という基本理念のもと、子どもの思いを聴き、考えを理解するとともに、地域社会に対する子どもの意識を醸成するため、東播磨地域の中学生を対象とした弁論大会を開催しています。また、発表の様子をDVDに記録したり、発表された中学生の熱い思いを文集として残す取組もしています。



中学生による発表

【活動報告】

今年度で15目を迎え、これまで多くの学校から作品の応募があり、大会の運営に協力していただきました。そこで、今回は過去10年間に多数の作品応募があった7校と司会を担当していただいている県立東播磨高等学校放送部に対して、感謝状を贈呈しました。

また、今年度は17校、延べ1,107名の応募者のなかから、書類審査を経た13名が、8月20日（土）に加古川総合庁舎5階会議室で発表しました。今大会の優勝者は、9月24日（土）に兵庫県民会館で行われた県大会に出場しました。



弁論大会を終えて

東播磨に駒音を響かそう グループ：東播磨に駒音を響かそう 代表 小野 大志

「東播磨に駒音を響かそう」は、将棋を通して、青少年の健全育成に尽力するべく活動しています。

子どもたちに将棋を広めるため、年1回子ども将棋大会を開催しています。また、他の将棋大会の運営協力をするとともに、将棋団体が一堂に会する交流会を実施することで、異世代交流の場づくりにも取り組んでいます。



将棋大会の様子①

【活動報告】

7月23日（土）、東播磨生活創造センター「かこむ」たばすにおいて、「第9回兵庫県東播磨少年少女将棋大会」を開催しました。当日は、少年少女たちが交流し、切磋琢磨するだけでなく、高砂市出身のプロ棋士である村田智弘六段の指導対局も実施し、楽しい時間を過ごすことができました。

今後、各地の公民館活動の交流会を実施する予定です。



将棋大会の様子②

夢のたねプロジェクト わくわくドキドキ感動体験

グループ：夢のたね 代表 照瀬 正樹

「夢のたね」は、東播磨地域の将来を担う子どもたちを対象に、職業体験や職業人との対話を行う「職業人と語ろう」という活動を実施し、子どもたちが自分自身の将来や職業観を考えるきっかけづくりのお手伝いをしています。東播磨地域で活躍する様々な職業人に講師を引き受けていただき、これまで様々な活動を続けてきました。

【活動報告】

8月23日(火)、夏休みの恒例行事となっているBAN-BANネットワークス㈱での“わくわくドキドキ仕事体験プログラム”並びに同時開催する“子供わくわく体験広場”には46名の小中学生と保護者21名の合計67名が参加し、実際のスタジオやTV中継車両を使用した仕事体験(アナウンサー、カメラマン等)や

場内は大人も子どもも大賑わいでした。

同じく恒例行事の“職業人と語ろう”は、学校行事との兼ね合いにより11月と2月に開催することが多く、今年度は加

古川市立野口小学校、野口南小学校並びに高砂市立米田西小学校にも新たなご賛同をいただき、活動の範囲を広げることができました。参加した子どもたちは職業人とのふれあいに少し大人になったような気持ちを持つことができました。

「夢のたね」では、これら以外にも兵庫大学祭「聚萌祭」、いなみ野祭や高砂キッズスペースとのコラボレート企画も実施していて、東播磨地域の将来を担う子どもたちに「夢見る力」「夢をかなえる力」を育んでもらえるよう活動を続けていきます。



職業人と語ろう(野口南小学校)



「わくわくドキドキ仕事体験」
カメラマン体験

論語に学ぶ グループ：仁讓塾(論語素読会) 代表 浅見 純子

論語を通じて、子どもたちの豊かな心を育成し、道徳心のある大人へと成長して欲しいとの願いを込めて活動しています。2,500年前にできた論語が、現代までの長い間、多くの方々に愛読されてきました。

1人でも多くの方が、私たちの祖先の血肉となり、バックボーンとなった、この優れた東洋の古典論語に親しむ機会を持てるように、「仁」と「讓」を根本理念として、実践活動に取り組んでいます。

【活動報告】

「子曰く、『学びて時に之を習う、亦説ばしからずや。朋遠方より来る有り、亦楽しからずや。人知らずして慍みず、亦君子ならずや』」。これは、論語全体の趣旨を象徴する三要素を述べた論語冒頭の篇です。この章自体「小論語」と言われています。声を出して読む論語素読会も27回を

数え、既に20篇を通読することができました。

「仁讓塾(論語素読会)」では、文字の解釈にとらわれず、自分の体験を踏まえながら、今の時代をいかに生くべきかを考え、古典を現代に生かして読む活学を大切にしています。8期では、新たに百人一首式論語カルタや情操を養う漢詩を暗誦朗唱して学びの楽しさを味わいます。昨年は、湯島聖堂で漢文検定に挑戦し、全員3級に合格しました。



論語素読教室(申義堂)



論語カルタ大会

楽しく多彩に学ぶ交流チャンネル グループ：らくがく倶楽部 代表 三宅 隆宏

私たちの役目は「つなぎ隊」、つまり“社会奉仕したい(人の役に立ちたい)方”と“受け入れ(活動の場を提供する)側”をつなぎます。

- ・人に喜んでもらいたい
- ・様々な特技・スキルを発表したい
- ・これまでに培った経験を生かしたい
- ・余った時間を地域社会に役立てたい

そんな方に対して活躍の場を探し、つないでいくことで、

東播磨の「人財」を生かし、地域の活性化に寄与しています。

【活動報告】

私たちは、社会奉仕したい方をボランティアグループに登録していただき、受け入れ側を探して両者をつ

なぎます。4月14日(木)、高砂市民病院緩和ケア病棟で二胡の演奏等々、活躍の場を提供しました。

また、住んでいる地域をもっと知り、学び、郷土愛を芽生

え育てるとともに、「つなぎ隊」の人材名簿登録のきっかけとするため、「東播磨の歴史と文化を学ぶ」を開催し、総勢125名の参加者がありました。4月6日(水)、満開の桜を愛でながら、教信寺法泉院長谷川慶悟住職の講話「西日本最大の賀古の駅と古代山陽道」を拝聴し、その後懇親会を開催しました。6月24日(金)、日岡御陵慰霊祭(正辰祭)に参列後、日岡神社日岡幾朗宮司の講演「神話と日岡神社」を拝聴し、参加者からの質問にも丁寧に答えていただきました。11月13日(日)、刀田山鶴林寺茂渡俊慶住職の講演「時代の流れを見透かす力『先見の明』とは?本質を見極めるコツを聴く!」を拝聴後、住職の案内で新旧宝物庫を見学しました。



東播磨の歴史と文化を学ぶ①(教信寺)



東播磨の歴史と文化を学ぶ②(鶴林寺)

3.美しいまち(まちづくり)

東播磨の豊かな水辺を守り伝える グループ：水辺に学ぶプロジェクト 代表 西川 孝晴

東播磨の貴重な生物が生息する加古川河口干潟を舞台に、豊かな生態と干潟が果たす役割を親子で学ぶ体験事業「海の学習」を開催しています。また、河川、ため池、海辺の管理者と地域住民による「語ろう会」では、水辺の現状と課題や今後の展望を話し合います。さらに、加古川河口に残る貴重な海浜植物の保全と、かつて河原で見ることができた植物の再生に向けた取組を進めています。

【活動報告】

東播磨の貴重な生物が生息する加古川河口干潟を舞台に、豊かな生態系と干潟が果たす役割を親子で学ぶ体験事業「海の学習」を実施しました。今年度は総勢70名が参加し、「投網は難しかったが、魚やカニが捕れて面白い。来年

も続けてほしい」と、子どもたちの歓声に体験事業の力を再認識しました。

また、「語ろう会」では水辺の現状と課題や今後の展望について話し合います。今年度は東播磨県民局と共催で「加古川土木事務所と語ろう会」を開催しており、加古川土木事務所伊藤裕文所長の講演会と現場見学会を実施し、参加者から好評を得ています。今後、第2回現場見学会を予定しています。さらに、加古川でハマボウフウやカワラナデシコ等の希少植物の保全活動を進めています。



加古川土木事務所と語ろう会(講演会)



海の学習

4.力強いまち（活力づくり）

JR加古川線沿線の活性化を図る

グループ：歌声列車の会 代表 真利 礼子

JR加古川線の利用客増加と沿線地域の活性化を目的に活動しています。

貸切列車「歌声列車」に一般公募の乗客を乗せて走らせます。生演奏に合わせて、歌を合唱しながらの列車の旅です。また、途中停車する西脇市駅前広場では、地元住民との交流イベントを企画・実施しています。南北につながる人的・物的交流をめざしています。

【活動報告】

平成17年12月18日（日）の第1次運行から始めて、12年目の平成28年12月4日（日）に、第18次「歌声列車」が乗客代表の「出発進行」の合図とともに加古川駅を出発しました。

この活動は、JR加古川線の利用を促進し、沿線活性化を図ることを目的としています。列車内でキーボー



歌声列車

ドに合わせて合唱を楽しみ、途中停車する西脇市駅前広場では北播磨・丹波地域から特産物の販売やカフェ等の提供を受けました。「歌声列車の会」からは、兵庫大学生の「健康教室」とメンバーの「折り紙教室」ブースを設けて交流しました。

加古川市から西脇市を經由して谷川駅間を走る「歌声列車」は、東播磨・北播磨・丹波の三地域をつなぎ、南北の人的・物的交流の場となっています。



車内の様子

地産・地消をひろげ、賑わいを作ろう

グループ：東播磨食の発見 代表 山口 恵子

生産地と消費地が隣接している東播磨地域の特性を踏まえ、地場産品をPRする料理教室を開催するとともに、ヘアリーベッチ米の普及に取り組んでいます。生産者や流通関係者をお招きするとともに、自らも食材を探究することで、地産・地消の発信源として、皆さんが地産・地消の重要性を身近に感じられるよう努めています。

【活動報告】

9月11日（日）、東播磨生活創造センター「かこむ」創作工房Aにて、料理教室を開催しました。今回は、志方牛を使ったローストビーフをグリルで簡単に焼くという手法を紹介し、漬け汁は酢を使って、夏らしくさっぱりと仕上げ、参



地産地消料理教室

加者にも好評でした。また、生産現場に出向き、肉の部位に合わせた調理方法等について話を聞きまとめたものを資料として参加者に配布しました。

10月30日（日）、神鋼かこがわフェスティバルにて、加古川農業改良普及センター及び兵庫大学と協力してヘアリーベッチ米の試食販売を行いました。皆さんと連携してスピーディーに提供することができて良かったです。



ローストビーフ!

東播磨ものづくり探訪会 グループ：東播磨ものづくり応援団 代表 濱谷 啓祐

東播磨地域は、日本有数のものづくり産業地帯として、日本経済の一翼を担ってきましたが、一般の方がものづくり企業の活動状況を間近で見る機会を得ることは、難しいのが実情です。

そこで、ものづくり応援団を立ち上げ、工場見学を企画・実施しています。参加者にアンケート調査を実施し、市民目線の評価を企業にフィードバックすることにより、ものづくり企業を応援する活動もしています。

【活動報告】

10月26日(水)、第8期第1回目のものづくり探訪会(通算17回目)として、日本山村硝子(株)播磨工場の見学を実施しました。高温の工場のなか、日頃見慣れた種々のガラス瓶



東播磨ものづくり探訪会①(日本山村硝子(株))

がハイスピードで生産される工程に驚きました。

引き続き、12月8日(木)、女性陣からの要望で、Q・B・Bブランドでお馴染み

の六甲バター(株)稲美工場を見学しました。プロセスチーズの製造工程を分かりやすく説明いただき、大変勉強になりました。

総勢36名の方に参加いただき、皆さん熱心に質問する姿が見受けられ、関心は高かったようです。見学後のアンケートでは、貴重な感想や提言をいただきました。そして、それらをまとめたものを探訪先へフィードバックさせていただきました。



東播磨ものづくり探訪会②(六甲バター(株))

サイクルツーリズムルートプラン

グループ：輪友ネット 代表 大西 哲男

ライフスタイルを自動車から自転車へできるだけ転換し、環境負荷の低減と健康に繋がる「エコ」な自転車社会が求められています。「輪友ネット」は、姫路明石自転車道を通して、自転車で走る爽快さと楽しさを感じていただき、自転車の利用を促進するための地図づくりに取り組んでいます。



姫路明石自転車道(浜の散歩道)

【活動報告】

今年度は、10回にわたる会議や試走を重ねて、個人、友人、そして家族にも利用しやすい明石-加古川間のマップ作成に向けて取り組んでいます。加古川土木事務所のご協力もいただきながら、名所旧跡やスポーツ施設、公園、グルメ、温泉等、地域の特色を盛り込み、色々な目的に対応する、使いやすいマップをめざしています。完成後は、イベントも企画していきます。



ママチャリをレンタサイクル!



鶴林寺で記念撮影

めざせ！東播磨子ども観光大使

グループ：子どもゆめの花 代表 溝端 久輝子

東播磨は、歴史・人・産業・グルメ等の観点から魅力いっばいの地域です。しかし、その魅力に気づいたり、地域に誇りや愛着を感じる機会はそう多くありません。

そこで、まちのことをよく知り、東播磨のことを大好きになって、その良さを発信できる子どもが増えることを願い、「東播磨子ども観光大使」を育てる取組を実施しています。

【活動報告】

「めざせ!東播磨子ども観光大使」は、東播磨に住む小学生を対象としたイベントです。東播磨子ども観光大使は、東播磨のことが大好きで、良く知っていて、その良さを発信で

きる、こんな子どもたちです。

今年度は5会場で開催し、それぞれのテーマは「郷土の偉人、ジョセフ・ヒコを学ぼう(播磨町)」「加古川牛を知ろう(加古川市)」「石の宝殿を散策しよう(高砂市)」「明石公園の秋を発信しよう(明石市)」「地産地消で秋の味覚を楽しもう(稲美町)」でした。そして、最終日の11月20日(日)に行なわれた検定に合格し、14名の子ども観光大使が誕生しました。これから東播磨の良さをもっとアピールしていきます。



加古川牛を知ろう(加古川食肉センター)



石の宝殿を散策しよう(石の宝殿)



郷土の偉人、ジョセフ・ヒコを学ぼう(播磨町郷土資料館)

ふるさとの魅力とにぎわいづくり

グループ：ふるさと見せ隊・知らせ隊 代表 別所 聖示



かこがわまちめぐりツアー

故郷の魅力を知らぬまま地元を離れる若者たちとともに地域を歩き、魅力を発見し、体験し、さらに探求していただく機会を歴史のガイド役としてお手伝いしています。それをもとに地図や写真集を編集・発行し、東播磨地域の魅力を

内外に伝え、さらに多彩な行事を開催することで賑わいを取り戻す取組をしています。

【活動報告】

4月3日(日)、桜の花見を兼ねての商店街&まちめぐりツアーを開催しました。総勢21名がJR加古川駅に集合し、寺家町商店街東入口を起点に商店主らと交流しながら、歴史ある建物や由緒ある場所を散策しました。素敵な時間を過ごすことができたとともに、商店街めぐりではお店の良い

点を挙げていただくアンケートを実施し、後日各店ごとにまとめて店主さんにお渡ししました。

12月4日(日)、寺家町商店街で開催された、明治時代から続く誓文払いに合わせて、商店街の歴史を知ってもらおうと「時代パレード」を開催しました。姫路城甲冑隊の応援を得て、当グループも甲冑と着物に身を包み、商店街からJR加古川駅周辺を練り歩きました。

これからもあらゆる角度から魅力を掘り出し、情報発信することで、活気を取り戻していきたいと思えます。



歴史めぐり&歴史行列

東播磨地域夢会議を開催

12月11日(日)、「[想い]を[言葉]に!!ふるさと育む地域(まち)づくり」をテーマに、兵庫大学で東播磨地域夢会議を開催しました。総勢115名の参加者が、地域(まち)づくりについて、金澤副知事を交えて話し合いました。

1.活動報告

若い世代の皆さんが東播磨地域で行なった様々な体験を通して学んだことや感じたこと、また、地域(まち)の将来像等について発表していただきました。発表内容は、次のとおりです。



- ◇東播磨子ども観光大使
「小学生による魅力ある地域資源の学びから」
- ◇県立東播工業高等学校機械科
「ものづくり企業の工場見学体験を通して」
- ◇神戸学院大学人文学部人文学科
「神吉の里山保全活動を盛り上げよう!~矢嶋ゼミのフィールドワークから~」
- ◇兵庫大学健康科学部看護学科
「地域を支える~認知症者とその家族の生活支援のために私たちができること~」

児童・生徒・学生たちによる活動報告は、違う視点から地域(まち)づくりを考えるきっかけになり、今後の委員会活動にとって、大変参考となる提案になりました。

2.グループディスカッション



東播磨地域ビジョンが描く4つの将来像がめざす「東播磨づくり」について、1テーマにつき2グループ、延べ8グループに分かれて、活動報告の内容を踏まえて、話し合い、地域創生(「人口減少の抑制」と「地域の元気づくり」)に向けた取組を考えました。あらかじめ、各テーマごとに設定されたキーワードを参考に議論を進めました。

4つの将来像&キーワード

将来像	キーワード
心地いいまち【暮らしづくり】	私たちにとって安全安心な地域
楽しいまち【人づくり】	若者が活動を継承できる地域
美しいまち【まちづくり】	環境への関心が高い地域
力強いまち【活力づくり】	「人・もの・情報」が魅力的に交流する地域

3.全体会

コーディネーターは、兵庫大学副学長 田端和彦教授、コメンテーターは、特定非営利活動法人NPO政策研究所 相川康子専務理事、兵庫県 金澤和夫副知事です。

グループ発表では、「日常的なコミュニケーション」「幅広い世代との交流」「地域をPRするために、マスコットキャラやシンボルの活用」「地域を好きになってもらうために、『職業体験』『多世代交流カフェ』『企業見学会』が必要」「まちづくりに関わるきっかけづくり」「東播磨地域の自然を生かす体験プログラム」「映画のロケ地を活用した情報発信」「地域資源の発見に繋がるフィールドワーク」等、今後の実践活動の鍵となるキーワードやアイデアが提案されました。



相川コメンテーターは、「『空き家』を使うという発表は、面白いアイデアですね。今ある資源を、それも上手に関われないものを『開く』ことで、新しいアイデアが出てくるかもしれません」等、グループごとにコメントされました。また、「優先順位を付ける」「統計分析」等、議論を一歩進める手法も提案していただきました。

金澤コメンテーターは、「対外的に情報発信する重要性」「ソーシャルキャピタルの必要性」「抱えている課題に取り組むとき、一工夫、二工夫を見出す努力」等、講評されるとともに、地域創生にどうしたら繋がるかをご指摘いただきました。



最後に、田端コーディネーターから「今回は『する』という段階まで入ってきており、方向性が根付いてきています。つまり、地域ビジョンが方向性を考えるものから、活動していく段階にシフトしています。皆さん一人ひとりが、何か『する』ことを考えなければなりません」と、東播磨地域夢会議を総括していただきました。

東播磨地域
ビジョン委員会
PR活動報告

神鋼かこがわフェスティバル、ボランティアメッセ2016、 兵庫大学祭「しゅうほうさい聚萌祭」、いなみ野祭に出展しました。

東播磨地域ビジョン委員会では、ビジョンとその実現に向けた取組の普及啓発を図るため、さまざまな情報発信活動を行っています。

①第26回神鋼かこがわフェスティバル

10月30日(日)、神鋼かこがわフェスティバルで、「ヘアリーベッチ米」の試食ブースの運営に協力しました。今年から、統一愛称が「はりま空の舞」に決定し、営農組合の「冠」に使用されます。

好天に恵まれ、新米の炊き上がりに合わせて、多くの方が試食に並びました。なかには、「昨年購入した米がおいしくて、今年も来た」という人もいらっしやいました。試食用のご飯提供と同時に、ビジョン啓発ティッシュを配布し、来場者にビジョンの取組もPRできました。



神鋼かこがわフェスティバル
【東播磨食の発見】

②ボランティアメッセ2016



パネルの展示【ふるさと見せ隊・知らせ隊】

11月6日(日)、「かこがわ市民団体連絡協議会」とともに東播磨地域ビジョン委員会は、JAビルで「ボランティア・メッセ2016」を共催しました。加古川市内の各種ボランティア団体が数多く出展しており、会場は大いに賑わい、多くの来場者が楽しむ様子が見られました。

ビジョン委員会は、取組を紹介するパネルの展示やパンフレット等の配布に加えて、実践活動グループ「仁譲塾(論語素読会)」による「論語カルタ」体験、「ふるさと見せ隊・知らせ隊」による『地域の魅力を集めた「ミニ写真集」』の展示等、来場者にPR活動を行いました。特に、「論語カルタ」体験は、小中学生に大人気でした。また、「ミニ写真集」は多くの方に興味を持っていただきました。

③第52回兵庫大学祭「しゅうほうさい聚萌祭」

11月12日(土)・13日(日)の両日に、兵庫大学祭「聚萌祭」が開催されました。ビジョン委員会の取組を紹介する出展も今年で3回目となります。お借りした教室にパネル展示及び体験コーナーを設けて、ビジョン委員会の活動をPRしました。実践活動グループの体験コーナーでは、それぞれのメンバーが興味を引く工夫をし、来場して下さった多くの方々に楽しんでいただきました。「夢のたね」では、職業体験の一貫であるものづくり体験に子どもたちはわくわく!「東播磨防災チーム」は、「人命を救うために私たちにできること」をテーマに、心臓マッサージやAED体験を実施し、非常時になぜ必要なのかのレクチャーを受けた参加者は、全員気持ちを引き締めました。大学祭ということもあり、多世代の集客のあるなかで、地域に根ざすビジョン委員会の活動を幅広く知っていただく良い機会になっていることを実感しました。



応急手当講習会【東播磨防災チーム】

④第44回いなみ野祭

加古川市平岡町にある高齢者大学の兵庫県いなみ野学園にて11月19日(土)・20日(日)に“第44回いなみ野祭”が開催されました。当日は学園生たちが広い施設内をフル活用して日頃のクラブ、サークル活動を発表し、両日とも多くの来場客で賑わっていました。

ビジョン委員会も学園内の目立つところにパネル展示スペースをお借りし、東播磨地域における様々な活動をPRしました。また、実践活動グループ「夢のたね」による子どもたちを対象とした大工さんの職業体験も開催され、参加した親子、学園生、スタッフも含め、異年齢でも楽しい時間が共有できることを実感することができました。



大工体験【夢のたね】

ズームアップ! ～兵庫大学生による地域活動支援～

兵庫大学では平成27年6月に立ち上がったボランティアセンターを中心に、加古川市や高砂市、稲美町等で開催される様々な地域活動の支援を行っています。平成27年度は74件、延べ752名が学外で行われたイベント等にボランティアとして参加しました。そのなかには、ビジョン活動も含まれており、「ハートランドぐり石ネット」の活動に参加しました。

平成28年度からは、ビジョン活動との関わりをさらに拡大し、「東播磨食の発見」「歌声列車の会」等の企画にも参加しています。10月30日(日)に開催された神鋼かこがわフェスティバルに出展したヘアリーベッチ米の試食ブースの運営に「東播磨食の発見」の皆さんとともに、ボランティアとして参加しました。参加した学生は「地元で収穫されるお米の銘柄を知らないことに気がきました。これからはお米の銘柄も気にしながら地元のお米を食べていきます」と新たな気付きがあったようです。



ヘアリーベッチ米の試食提供



看護学科生による健康教室

また「歌声列車の会」では、歌声列車のイベントを盛り上げるために、看護学科生による健康教室を西脇市駅で開催し、体調管理を目的に歌声列車参加者へ血圧チェックを行いました。参加した学生は「地域の方々の健康志向の高さに驚きました。看護師をめざす私たちが応援してくれたことが嬉しかったです。歌声列車も少し乗ることができ、すごく楽しかったです。次は1日乗ってみたいです」とのこと。当日は地域医療福祉研修センターも応援し、乳がんの触診体験と早期発見に対するアドバイスも併設で開催しました。

【兵庫大学ボランティアセンター】

きらつとくらム ～第8期東播磨地域ビジョン委員になって～

高齢者大学である「いなみ野学園」を卒業するにあたって、今後の進路をどうするか迷っていました。そんななか、「ハートランドぐり石ネット」主催の行事に参加しましたところ、「地域ビジョンとは何だろう」という興味を持つようになりました。そして、前委員長である平山彰氏の勧めもあり、応募に至りました。

東播磨地域ビジョン委員会は、公募で選出されたビジョン委員で構成され、4つの分科会に分かれて、16の実践活動グループが、重点行動プランに基づいて活動しています。経験豊富な人材と実行力を持つ団体です。現在、16のうち2グループに所属させていただき、プランの内容も少しずつ理解できるようになってきました。

活動を展開する上で、最大の課題は人集めです。行事を開催するには参加者が不可欠です。機会を見つけては、チラシを手渡すとともに、説明していますが、なかなか思うようにはいきません。今後、活動内容の充実を図るとともに、参加者の募集に一工夫、二工夫を凝らしていきたいです。

【東播磨地域ビジョン委員 榎谷 正信】



折紙を通じて、外国人と交流する榎谷委員(右)

東播磨地域ビジョン委員会 facebook で情報発信!



ビジョン委員会の取組を随時紹介しています。
ご覧いただいた方は、ぜひ「いいね!」を押してください。

Facebook 東播磨地域ビジョン委員会

検索

